

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-104584

(P2015-104584A)

(43) 公開日 平成27年6月8日(2015. 6. 8)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 7/00 (2006.01)	A 4 7 B 7/00	3 B 0 5 3
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00	B
A 4 7 B 13/02 (2006.01)	A 4 7 B 13/02	
	A 4 7 B 13/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2013-248743 (P2013-248743)	(71) 出願人	000139780
(22) 出願日	平成25年11月29日 (2013. 11. 29)		株式会社イトーキ
			大阪府大阪市城東区今福東 1 丁目 4 番 1 2 号
		(71) 出願人	390005452
			伊藤喜オールスチール株式会社
			千葉県野田市尾崎 2 2 8 8
		(74) 代理人	100074561
			弁理士 柳野 隆生
		(74) 代理人	100124925
			弁理士 森岡 則夫
		(74) 代理人	100163577
			弁理士 中川 正人

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 組立式デスク

(57) 【要約】

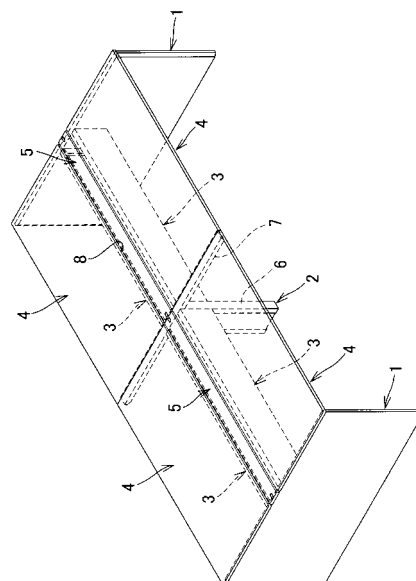
【課題】

必要最小限の基本構成部品からなるロックダウン方式で側方への拡張性を備え、施工性にも優れ、更なるコスト低減化を図ることが可能であり、追加オプションによる拡張性も有する組立式デスクを提供する。

【解決手段】

少なくとも両端部に配する端部脚 1、中間に配し、脚柱 6 と支持アーム 7 からなる側面視略 T 字形の中間脚 2、端部脚と中間脚の間又は中間脚と他の中間脚の間を連結する前後一对のビーム板 3 及び端部脚と中間脚の上面に前後に間隔を置いて載置して取付ける天板 4 とを有し、一对のビーム板を前後に間隔を隔てて配置してそれぞれ端部脚又は前記中間脚に連結するとともに、前後の天板間のダクト開口 8 の下方に両ビーム板間に形成するダクト空間 9 が位置し、ダクト開口にはダクトカバー 5 を着脱可能に装着する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

少なくとも両端部に配する端部脚、中間に配し、脚柱と 1 本の支持アームからなる側面視略 T 字形の中間脚、前記端部脚と中間脚の間又は中間脚と他の中間脚の間を連結する前後一对のビーム板及び前記端部脚と中間脚の上面に前後に間隔を置いて載置して取付ける天板とを有し、一对の前記ビーム板を前後に間隔を隔てて配置してそれぞれ前記端部脚又は前記中間脚に連結するとともに、前後の天板間のダクト開口の下方に両ビーム板間に形成するダクト空間が位置し、前記ダクト開口にはダクトカバーを着脱可能に装着することを特徴とする組立式デスク。

【請求項 2】

前記ビーム板は、垂直な幕板の上下縁を内方に折曲して上下補強縁を形成するとともに、前記幕板の両端部内側に垂直な取付端板を有する連結部材を固着し、該取付端板を前記端部脚又は前記中間脚の側面上部にネジ止めしてなる請求項 1 記載の組立式デスク。

【請求項 3】

前記端部脚及び前記中間脚の側面に沿った位置で、前記ビーム板間の上部にわたって受部材を取付け、該受部材に机上パネルの支持部材を取付けるとともに、前記ダクト開口の上位に左右両側の支持部材で机上パネルを支持してなる請求項 1 又は 2 記載の組立式デスク。

【請求項 4】

前記受部材は、垂直な基板の上縁を直角に折曲して前記支持部材を取付ける取付板を形成するとともに、前記基板の両側下端部に下方へ開放した U 字溝を形成し、前記ビーム板を前記端部脚又は前記中間脚に取付けるネジに両 U 字溝を係合し、該ビーム板と共締めしてなる請求項 3 記載の組立式デスク。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、組立式デスクに係わり、更に詳しくはロックダウン方式で側方への拡張性を備えた組立式デスクに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来から、端部脚と中間脚と、その間を連結する連結部材と、天板とからなり、中間脚を介して同一脚間距離で次々に天板を側方へ連設する構造の組立式デスクは各種提供されている。

【0003】

例えば、本出願人に係る特許文献 1 には、少なくとも両端部に配する端部脚、中間に配する中間脚、前記端部脚と中間脚の間又は中間脚と他の中間脚の間を連結する脚間モジュール及び前記端部脚と中間脚の上面に前後に間隔を置いて載置して取付ける天板を有するとともに、前後の天板の間の下方に前記脚間モジュールに備えたダクト開口が位置する組立式デスクが開示されている。

【0004】

更に詳しくは、特許文献 1 に記載の組立式デスクは、天板は全て同一横幅であり、中間脚は、脚柱と支持アームからなる側面視略 T 字形であるとともに、その横幅を前記端部脚の横幅の 2 倍に設定したものであり、脚間モジュールは、前後に間隔を隔てて配する両ビーム板と、両ビーム板の両端上部間を連結する連結板とからなり、前記ビーム板は上下を内側に折り曲げるとともに、端面に断面 L 字形部材を固定して連結片を形成し、両ビーム板に固定した断面 L 字形部材の上部間を前記連結板で連結して上下貫通したダクト開口を形成するとともに、両端部において両連結片と連結板とで前記ダクト開口に連通して横方向に開放した開口部を形成させ、更に前記端部脚と中間脚の間及び隣り合う両中間脚の間で同一長さとしたものであり、前記天板の下面側縁を、前記端部脚の上面に天板の側端面と端部脚の外側面が面一となるように載置するとともに、前記中間脚の上面に天板の側端

10

20

30

40

50

面と中間脚の中心線が一致するように載置して取付手段にて取付け、中間脚の位置における天板同士の側端面を直接接合するものである。

【0005】

前述の特許文献1に記載のコンセプトの組立式デスクは、構造が単純、組立施工も簡単、比較的低コストであることから、市場において好評を博しているところであり、他社も追随しているところであるが、課題も若干ある。つまり、脚間モジュールは、前後に間隔を隔てて配した両ビーム板の両端間を連結板で連結した構造であるので、嵩張ることは否めず、保管や搬送における空間効率を悪くする原因となっていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0006】

【特許文献1】特開2007-151824号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

そこで、本発明が前述の状況に鑑み、解決しようとするところは、必要最小限の基本構成部品からなるロックダウン方式で側方への拡張性を備え、施工性にも優れ、更なるコスト低減化を図ることが可能であり、追加オプションによる拡張性も有する組立式デスクを提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

20

【0008】

本発明は、前述の課題解決のために、少なくとも両端部に配する端部脚、中間に配し、脚柱と1本の支持アームからなる側面視略T字形の中間脚、前記端部脚と中間脚の間又は中間脚と他の中間脚の間を連結する前後一对のビーム板及び前記端部脚と中間脚の上面に前後に間隔を置いて載置して取付ける天板とを有し、一对の前記ビーム板を前後に間隔を隔てて配置してそれぞれ前記端部脚又は前記中間脚に連結するとともに、前後の天板間のダクト開口の下方に両ビーム板間に形成するダクト空間が位置し、前記ダクト開口にはダクトカバーを着脱可能に装着することを特徴とする組立式デスクを構成した(請求項1)。

【0009】

30

ここで、前記ビーム板は、垂直な幕板の上下縁を内方に折曲して上下補強縁を形成するとともに、前記幕板の両端部内側に垂直な取付端板を有する連結部材を固着し、該取付端板を前記端部脚又は前記中間脚の側面上部にネジ止めしてなるものである(請求項2)。

【0010】

また、前記端部脚及び前記中間脚の側面に沿った位置で、前記ビーム板間の上部にわたって受部材を取付け、該受部材に机上パネルの支持部材を取付けるとともに、前記ダクト開口の上位に左右両側の支持部材で机上パネルを支持してなることも好ましい(請求項3)。

【0011】

40

更に、前記受部材は、垂直な基板の上縁を直角に折曲して前記支持部材を取付ける取付板を形成するとともに、前記基板の両側下端部に下方へ開放したU字溝を形成し、前記ビーム板を前記端部脚又は前記中間脚に取付けるネジに両U字溝を係合し、該ビーム板と共締めしてなることがより好ましい(請求項4)。

【発明の効果】

【0012】

以上にしてなる請求項1に係る発明の組立式デスクによれば、少なくとも両端部に配する端部脚、中間に配し、脚柱と1本の支持アームからなる側面視略T字形の中間脚、前記端部脚と中間脚の間又は中間脚と他の中間脚の間を連結する前後一对のビーム板及び前記端部脚と中間脚の上面に前後に間隔を置いて載置して取付ける天板とを有し、一对の前記ビーム板を前後に間隔を隔てて配置してそれぞれ前記端部脚又は前記中間脚に連結すると

50

ともに、前後の天板間のダクト開口の下方に両ビーム板間に形成するダクト空間が位置し、前記ダクト開口にはダクトカバーを着脱可能に装着するので、必要最小限の基本構成部品からなるロックダウン方式で側方への拡張性を備え、施工性にも優れている効果の他に、一対のビーム板を重ねれば空間の利用効率が上がり、また梱包材の節約もでき、保管、搬送のコストを低減することができ、基本構成のデスクのコスト低減化にも寄与するのである。

【0013】

請求項2によれば、前記ビーム板は、垂直な幕板の上下縁を内方に折曲して上下補強縁を形成するとともに、前記幕板の両端部内側に垂直な取付端板を有する連結部材を固着し、該取付端板を前記端部脚又は前記中間脚の側面上部にネジ止めしてなるので、ビーム板は偏平な形状であるので、取り扱いが容易であり、脚間に前後一対連結した状態では、剛性が高い構造となり、安定に天板を支持することができる。

10

【0014】

請求項3によれば、前記端部脚及び前記中間脚の側面に沿った位置で、前記ビーム板間の上部にわたって受部材を取付け、該受部材に机上パネルの支持部材を取付けるとともに、前記ダクト開口の上位に左右両側の支持部材で机上パネルを支持してなるので、机上パネルが必要な場合にのみオプションとして受部材を取付けて、机上パネルの支持部材を取付けることができ、基本構成がより単純になるのでコスト低減化に寄与するとともに、オプションによる拡張性をも確保できる。

【0015】

20

請求項4によれば、前記受部材は、垂直な基板の上縁を直角に折曲して前記支持部材を取付ける取付板を形成するとともに、前記基板の両側下端部に下方へ開放したU字溝を形成し、前記ビーム板を前記端部脚又は前記中間脚に取付けるネジに両U字溝を係合し、該ビーム板と共締めしてなるので、受部材を簡単に取付けることができ、また受部材の取付状態は極めて安定であるので、支持部材を介して机上パネルを安定に支持でき、更に追加部品点数も最小となってコスト低減化に寄与する。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明の組立式デスクの構成例を示す斜視図である。

【図2】同じく部分分解斜視図である。

30

【図3】同じく端部脚と中間脚をビーム板で連結した後、天板を取付ける状態の部分分解斜視図である。

【図4】端部脚にビーム板を連結する状態の部分分解斜視図である。

【図5】端部脚にビーム板を連結した状態の部分斜視図である。

【図6】中間脚の部分分解斜視図である。

【図7】組立式デスクの縦断側面図である。

【図8】ダクト部分の拡大縦断面図である。

【図9】机上パネルを備えた組立式デスクの構成例を示す斜視図である。

【図10】同じく受部材と机上パネルの支持部材の関係を示す拡大部分斜視図である。

【図11】机上パネルの支持構造を示す部分省略斜視図である。

40

【図12】両側の支持部材に机上パネルを支持する状態の分解斜視図である。

【図13】机上パネルを備えた組立式デスクの縦断側面図である。

【図14】ダクト部分の拡大縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

次に、添付図面に示した実施形態に基づき、本発明を更に詳細に説明する。図1は本発明に係る組立式デスクを示し、図2～図8はその詳細を示し、図9～図14は机上パネルを備えた組立式デスクを示し、図中符号1は端部脚、2は中間脚、3はビーム板、4は天板、5はダクトカバーをそれぞれ示している。

【0018】

50

本発明に係る組立式デスクは、少なくとも両端部に配する端部脚 1 , 1、中間に配し、脚柱 6 と 1 本の支持アーム 7 からなる側面視略 T 字形の中間脚 2、前記端部脚 1 と中間脚 2 の間又は中間脚 2 と他の中間脚 2 の間を連結する前後一对のビーム板 3 , 3 及び前記端部脚 1 と中間脚 2 の上面に前後に間隔を置いて載置して取付ける天板 4 とを有し、一对の前記ビーム板 3 , 3 を前後に間隔を隔てて配置してそれぞれ前記端部脚 1 又は前記中間脚 2 に連結するとともに、前後の天板 4 , 4 間のダクト開口 8 の下方に両ビーム板 3 , 3 間に形成するダクト空間 9 が位置し、前記ダクト開口 8 にはダクトカバー 5 を着脱可能に装着するものである。

【 0 0 1 9 】

前記端部脚 1 は、図 2 に示すように、側面視四角形の板状のものであり、上端に天板 4 を取付ける取付金具 1 0 , ... を内方へ向けて前後に 4 つ固定している。前記端部脚 1 は、前後両端の内面側を約 4 5 度に面取りして、外観性においてシャープなイメージを醸し出している。前記取付金具 1 0 は、図 5 に示すように、L 字形のアンクル材であり、該取付金具 1 0 を取付ける前記端部脚 1 の上端内側コーナー部には切欠孔 1 1 を形成し、該取付金具 1 0 の垂直片 1 0 A を前記切欠孔 1 1 に挿入し、端部脚 1 の内面側から挿入したネジ 1 2 を垂直片 1 0 A に螺合して取付けると、水平片 1 0 B が端部脚 1 の上面と面一となって内方へ向いた突出する。前記取付金具 1 0 の水平片 1 0 B には取付孔 1 3 が形成されている。

【 0 0 2 0 】

また、前記中間脚 2 は、図 2、図 3 及び図 6 に示すように、脚柱 6 と前後方向に延びた 1 本の支持アーム 7 とからなる側面視略 T 字形を有し、前記支持アーム 7 の横幅は端部脚 1 の横幅の 2 倍に設定している。尚、前記支持アーム 7 には、前記端部脚 1 の取付金具 1 0 の取付孔 1 3 に対応させて、上下貫通した貫通孔 1 4 , ... を 2 つずつ並べて 4 箇所形成している。更に詳しくは、前記中間脚 2 の脚柱 6 は、前後一对の脚杆 1 5 , 1 5 を間隔を隔てて前記支持アーム 7 の中央部下側に固定するとともに、脚杆 1 5 , 1 5 の下端間を結合片 1 6 で連結して一体化し、更に両脚杆 1 5 , 1 5 の上部を余して脚カバー 1 7 , 1 7 を両側に着脱可能に嵌着している。また、前記端部脚 1 の下端及び前記中間脚 2 の脚柱 6 の下端には適宜アジャスター 1 8 , ... を設けるものとする。ここで、前記脚カバー 1 7 より上方の両脚杆 1 5 , 1 5 の間は前記ダクト空間 9 に連通するダクト開口部 1 9 となる。

【 0 0 2 1 】

前記ビーム板 3 は、図 2、図 4 及び図 5 に示すように、垂直な幕板 2 0 の上下縁を内方に折曲して上下補強縁 2 1 , 2 2 を形成するとともに、前記幕板 2 0 の両端部内側にアンクル材からなる連結部材 2 3 を固着したものである。ここで、前記連結部材 2 3 の垂直な取付端板 2 4 がビーム板 3 の端面に一致するようにしている。前記連結部材 2 3 の取付端板 2 4 の上下部にダルマ孔 2 5 , 2 5 を形成している。

【 0 0 2 2 】

そして、図 4 に示すように、前記端部脚 1 の内側面の上部に、前記ビーム板 3 の取付端板 2 4 に形成した両ダルマ孔 2 5 , 2 5 に対応させて頭部付き連結ネジ 2 6 , 2 6 を突設する。同様に、前記中間脚 2 の脚柱 6 を構成する脚杆 1 5 , 1 5 の上部両側面にも頭部付き連結ネジ 2 6 , 2 6 を突設する。

【 0 0 2 3 】

前記天板 4 の構造は特に限定されないが、スチール製の表面板と裏面板の間にハニカムを介在させ、その周囲に合成樹脂製の低発泡体、あるいは中質繊維板 (M D F) 等を配して芯材とした構造のものを採用した。また、スチール製の表面板と裏面板の間に直接低発泡の合成樹脂製の芯材を発泡形成することも可能である。更には、前記天板 4 は木質系の中実構造のものでも良い。そして、前記天板 4 の下面の両側端縁の前後部であって、前記取付金具 1 0 , 1 0 の取付孔 1 3 , 1 3、中間脚 2 の支持アーム 7 に形成した貫通孔 1 4 , 1 4 に対応する位置に螺孔 2 7 , 2 7 を形成している。

【 0 0 2 4 】

10

20

30

40

50

このような各部品を用いて本実施形態に係る組立式デスクを施工するには、先ず図 2 及び図 4 に示すように、前記端部脚 1 を立起状態にして、前記ビーム板 3 の一方の連結部材 2 3 に形成したダルマ孔 2 5 , 2 5 を前記端部脚 1 の内側面に突設した頭部付き連結ネジ 2 6 , 2 6 に係止し、それから連結ネジ 2 6 を締め付ける。同様に、もう一枚のビーム板 3 を前記端部脚 1 の内側面に連結する。次に、前記中間脚 2 を立起状態にして、両ビーム板 3 , 3 の連結部材 2 3 , 2 3 に設けたダルマ孔 2 5 , ... を予め脚柱 6 に緩く螺着していた連結ネジ 2 6 , ... に係止した後、締め付けて連結する。この状態で前後一对のビーム板 3 , 3 間にはダクト空間 9 が形成される。次に、図 3 に示すように、前記端部脚 1 と中間脚 2 の上面に天板 4 の下面両側縁を載置し、前記端部脚 1 に設けた取付金具 1 0 , 1 0 の取付孔 1 3 , 1 3 と中間脚 2 の支持アーム 7 に形成した貫通孔 1 4 , 1 4 に、下方からネジ 2 8 , ... を挿通して前記天板 4 の螺孔 2 7 , ... に螺合する。

10

【 0 0 2 5 】

それから、前記中間脚 2 の他の側面に、他のビーム板 3 , 3 の一端部を前記同様に連結するとともに、該ビーム板 3 , 3 の他端部に前記同様に中間脚 2 又は端部脚 1 を連結する。このように、次々と側方へビーム板 3 , 3 、中間脚 2 、天板 4 を連結していき、最後に端部脚 1 を連結するのである。

【 0 0 2 6 】

更に、前記端部脚 1 の上面であって前後の天板 4 , 4 間には、図 5 に示すように、端金具 2 9 を取付ける。この端金具 2 9 は、水平な取付板 3 0 の外側に当止片 3 1 を立上げるとともに、取付板 3 0 の前後部に端部を余して突片 3 2 , 3 2 を切り起し形成したものであり、前記取付板 3 0 を前記端部脚 1 の上面にネジ 3 3 , 3 3 で取付ける。前記端金具 2 9 の当止片 3 1 は、前記ダクトカバー 5 のズレを規制する。また、前記中間脚 2 の支持アーム 7 の上面であって前後の天板 4 , 4 間には、図 6 に示すように、中間金具 3 4 を取付ける。前記中間金具 3 4 は断面略コ字形で前記支持アーム 7 の上面及び両側面に被さるように取付ける。前記中間金具 3 4 の上面には、前記端金具 2 9 の突片 3 2 , 3 2 と同じ間隔で二対の突起 3 5 , 3 5 を突設している。これら、突片 3 2 , 3 2 や突起 3 5 , 3 5 は、前記ダクトカバー 5 を所定の位置に正確に載支するのに利用する。つまり、前後の天板 4 , 4 の端部とダクトカバー 5 の間に、それぞれ配線コードを挿通するための隙間を形成するのである。

20

【 0 0 2 7 】

このように組立てたデスクは、図 7 及び図 8 に示すように、前後一对のビーム板 3 , 3 の間にダクト空間 9 が形成される。そこで、両ビーム板 3 , 3 の下側補強縁 2 2 , 2 2 に所定長さのコード受け 3 6 を適数係止し、配線コードを受けることができるようにしている。前記コード受け 3 6 は、トレーを構成し、両側縁に形成した係止部 3 7 , 3 7 を前記ビーム板 3 , 3 の下側補強縁 2 2 , 2 2 に係止するようにしている。

30

【 0 0 2 8 】

次に、図 9 ~ 図 1 4 に基づいて、オプションとして、前後の天板 4 , 4 の中間に机上パネル 3 8 を支持する場合を説明する。つまり、前記端部脚 1 及び前記中間脚 2 の側面に沿った位置で、前記ビーム板 3 , 3 間の上部にわたって受部材 3 9 , 3 9 を取付け、該受部材 3 9 に机上パネル 3 8 の支持部材 4 0 を取付けるとともに、前記ダクト開口 8 の上位に左右両側の支持部材 4 0 , 4 0 で机上パネル 3 8 を支持してなる。

40

【 0 0 2 9 】

ここで、前記受部材 3 9 は、図 1 0 に示すように、垂直な基板 4 1 の上縁を直角に折曲して前記支持部材 4 0 を取付ける取付板 4 2 を形成するとともに、前記基板 4 1 の両側下端部に下方へ開放した U 字溝 4 3 , 4 3 を形成し、前記ビーム板 3 , 3 を前記端部脚 1 又は前記中間脚 2 に取付ける上側の連結ネジ 2 6 , 2 6 に両 U 字溝 4 3 , 4 3 を係合し、該ビーム板 3 の取付端板 2 4 と共締めしてなるのである。前記受部材 3 9 は、前記基板 4 1 の下縁及び前記取付板 4 2 の端縁に補強片 4 1 A , 4 1 A をそれぞれ直角に折曲形成して支持強度を高めている。また、前記受部材 3 9 の取付板 4 2 には、前記支持部材 4 0 をネジ止めするための螺孔 4 4 , 4 4 若しくは下穴を形成している。

50

【 0 0 3 0 】

前記支持部材 4 0 は、前記受部材 3 9 の取付板 4 2 に取付ける固定板 4 5 の一側縁に、前記端部脚 1 又は中間脚 2 の支持アーム 7 の上面に位置する段状に屈曲した支持板 4 6 を折曲形成し、該支持板 4 6 には支持ピン 4 7 を立設したものである。前記支持部材 4 0 の支持板 4 6 は、前記端金具 2 9 の両突片 3 2 , 3 2 の間、若しくは中間金具 3 4 の突起 3 5 , 3 5 の間に位置する寸法である。前記支持部材 4 0 の固定板 4 5 を前記受部材 3 9 の取付板 4 2 に載せ、該固定板 4 5 に形成した通孔 4 8 , 4 8 に挿通したネジ 4 9 , 4 9 を前記取付板 4 2 の螺孔 4 4 , 4 4 に螺合して、支持ピン 4 7 が立起状態となるように取付ける。

【 0 0 3 1 】

10

図 1 1 に示すように、前記端部脚 1 の中央部に支持部材 4 0 の支持ピン 4 7 が立起し、前記中間脚 2 の支持アーム 7 の中央部に 2 本の支持ピン 4 7 , 4 7 が立起した状態となる。そして、左右一对の支持ピン 4 7 , 4 7 を前記机上パネル 3 8 の両端に係合して支持するのである。図 1 3 及び図 1 4 に示すように、前記前記ダクト開口 8 の上位に位置し、前記ダクトカバー 5 との間には空間を設けて、該ダクトカバー 5 の着脱を可能としている。また、前記ダクトカバー 5 の両端部には、前記支持ピン 4 7 を逃がすための切欠部 5 0 , 5 0 を形成している。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 2 】

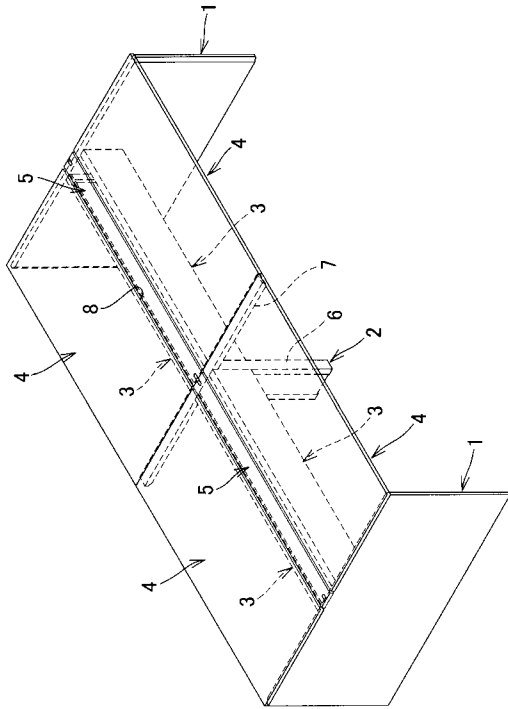
20

- | | |
|------------|------------|
| 1 端部脚、 | 2 中間脚、 |
| 3 ビーム板、 | 4 天板、 |
| 5 ダクトカバー、 | 6 脚柱、 |
| 7 支持アーム、 | 8 ダクト開口、 |
| 9 ダクト空間、 | 10 取付金具、 |
| 10 A 垂直片、 | 10 B 水平片、 |
| 11 切欠孔、 | 12 ネジ、 |
| 13 取付孔、 | 14 貫通孔、 |
| 15 脚杆、 | 16 結合片、 |
| 17 脚カバー、 | 18 アジャスター、 |
| 19 ダクト開口部、 | 20 幕板、 |
| 21 上側補強縁、 | 22 下側補強縁、 |
| 23 連結部材、 | 24 取付端板、 |
| 25 ダルマ孔、 | 26 連結ネジ、 |
| 27 螺孔、 | 28 ネジ、 |
| 29 端金具、 | 30 取付板、 |
| 31 当止片、 | 32 突片、 |
| 33 ネジ、 | 34 中間金具、 |
| 35 突起、 | 36 コード受け、 |
| 37 係止部、 | 38 机上パネル、 |
| 39 受部材、 | 40 支持部材、 |
| 41 基板、 | 42 取付板、 |
| 43 U字溝、 | 44 螺孔、 |
| 45 固定板、 | 46 支持板、 |
| 47 支持ピン、 | 48 通孔、 |
| 49 ネジ、 | 50 切欠部。 |

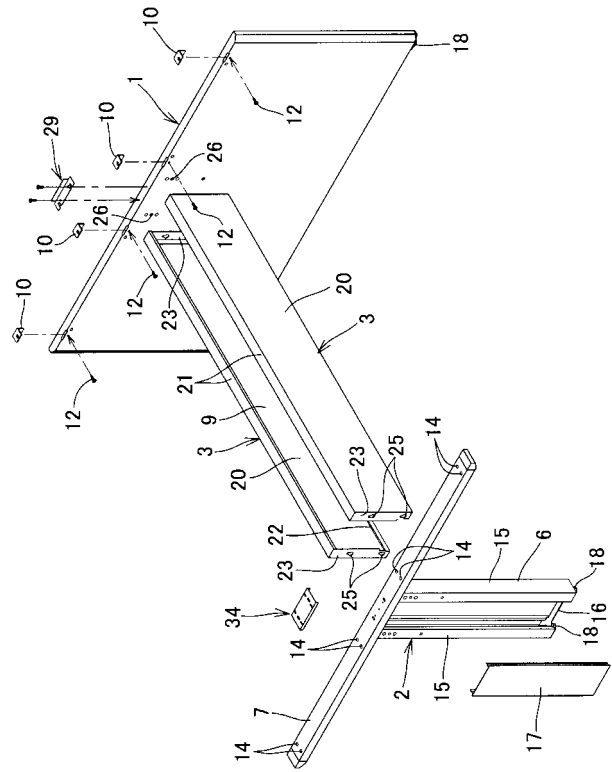
30

40

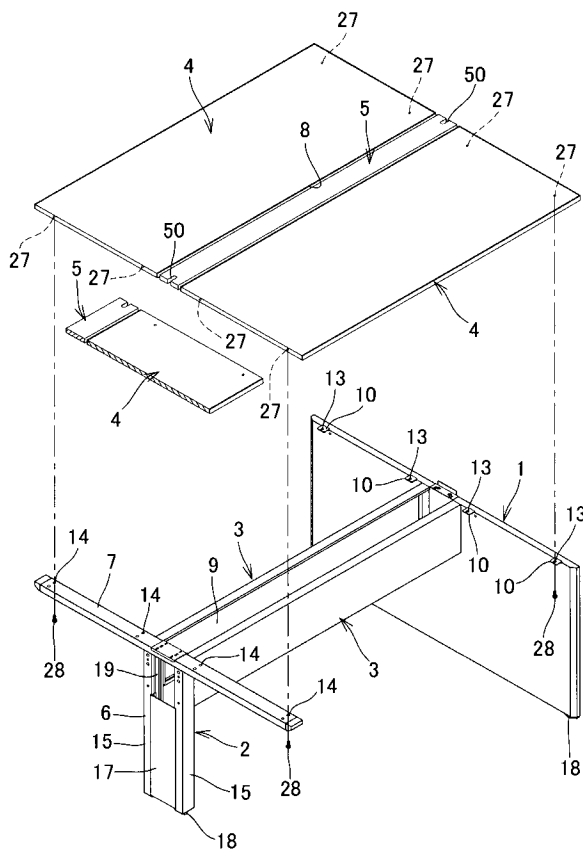
【図 1】



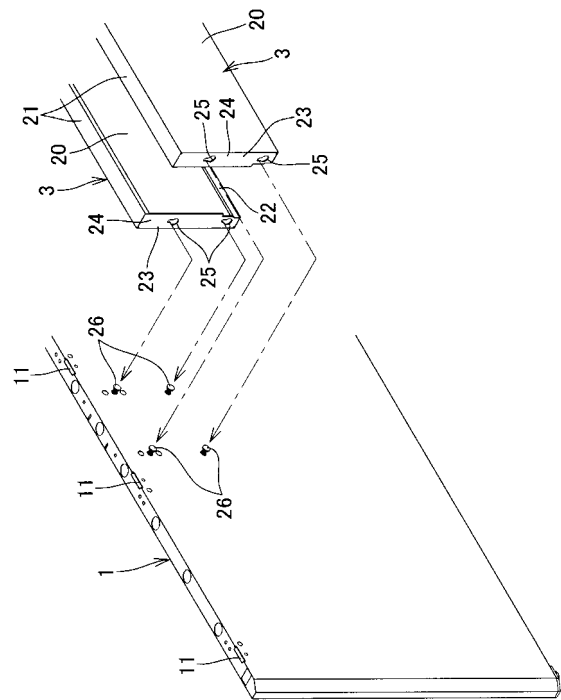
【図 2】



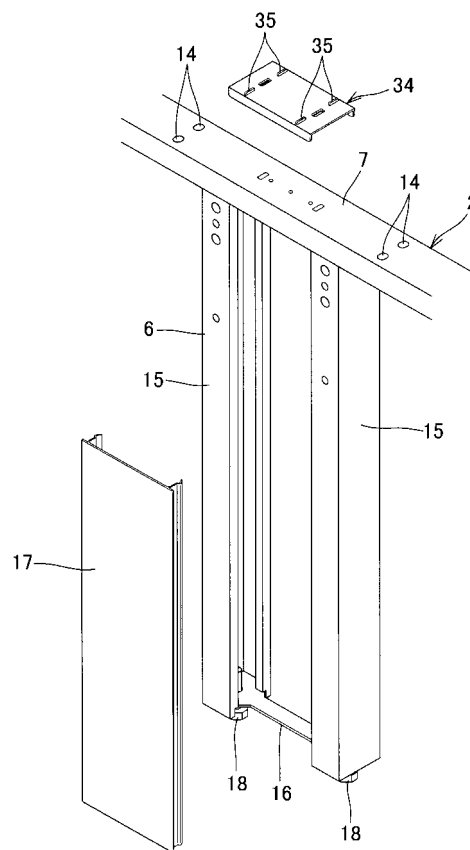
【図 3】



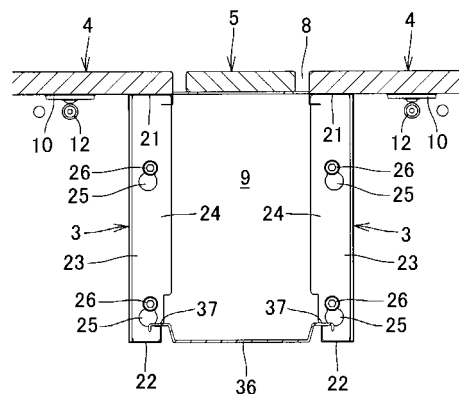
【図 4】



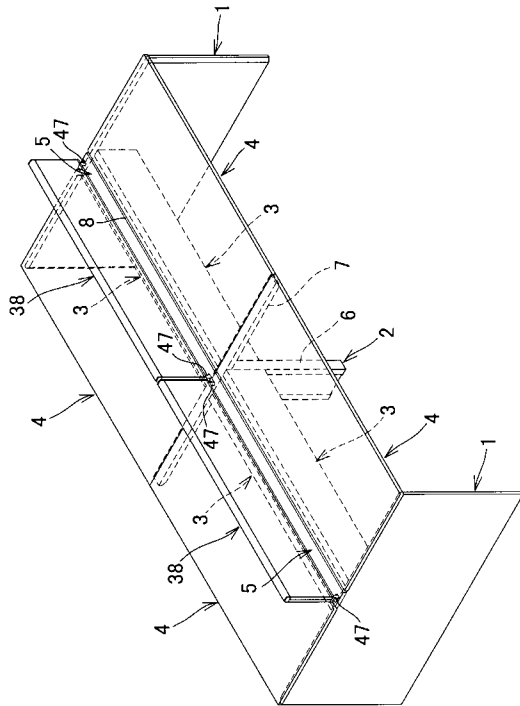
【 図 6 】



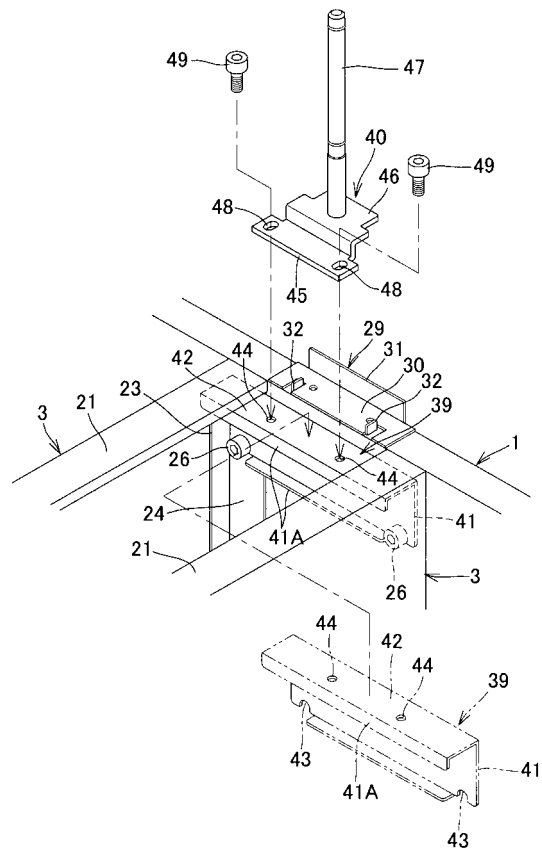
【 図 8 】



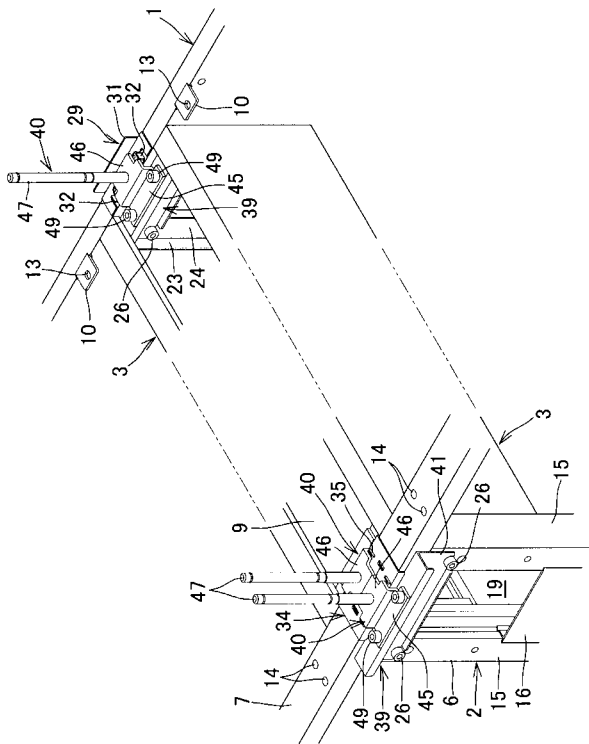
【図 9】



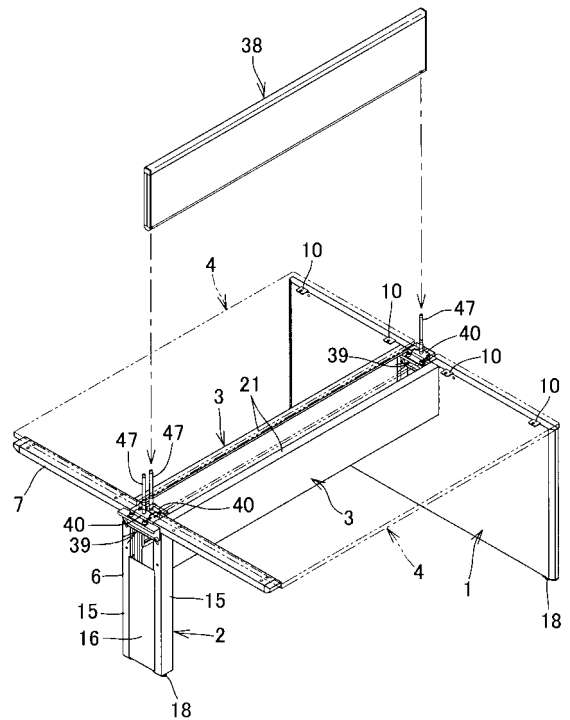
【図 10】



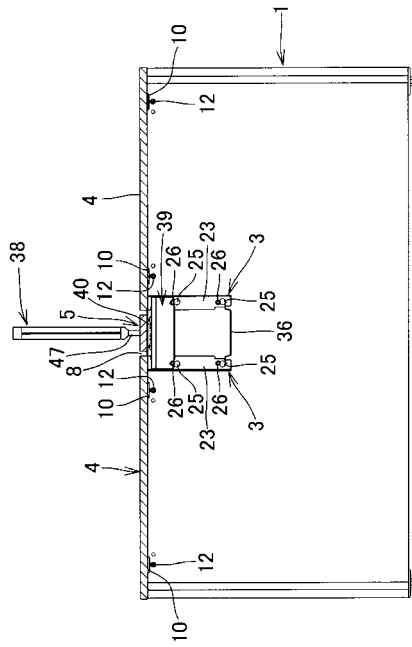
【図 11】



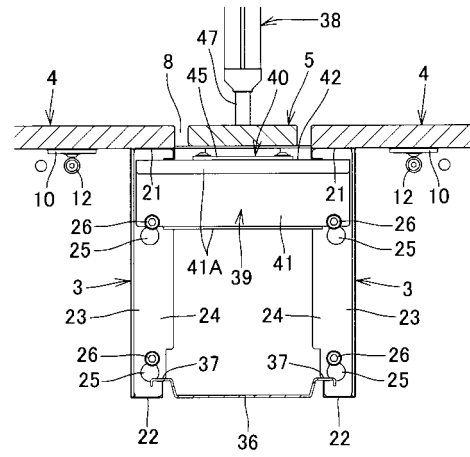
【図 12】



【図 13】



【図 14】



フロントページの続き

(72)発明者 村山 太祐

千葉県野田市尾崎2 2 8 8 伊藤喜オールスチール株式会社内

Fターム(参考) 3B053 NN01 NN02 NP02 NP08 NQ08 NR01